



次で「ヒヤリハット活動の進め方や利点」について解説!

# …今日も快晴!… トラックドライバー 日記

「安全・安心」に欠かせない取り組みを、サンライズ運送に勤めるスタッフたちそれぞれのエピソードを通じて紹介。

## 第14話 ヒヤリハット報告書は 安全への願いの証



中嶋 りさ (20)  
昨年入社したイマドキの若手ドライバー。春に先輩との同乗配送を終え、ひとり乗務を始めただけ。基本的にまじめで器用。そつなく仕事をこなしている。

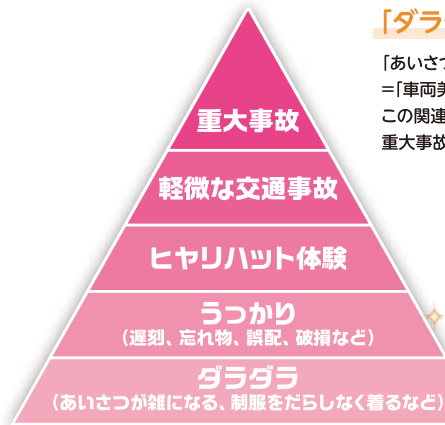


## ヒヤリハット報告書を書く時間は安全を考えた時間 =安全でいられる時間

ヒヤリハット報告書の提出が多い人は、「自身が安全な証拠」。  
また報告書への記入が多い人は、「全員の安全に貢献する人」。



マンガ制作:ad-manga.com



サンライズ運送流  
「ハインリッヒの法則」

## 「ダラダラ」=重大事故の遠因に

「あいさつ」「身だしなみ」がきちんとできない  
=「車両美化・整備、車輪止め」もきちんとできない、  
この関連が否定できず最終的に  
重大事故につながる可能性があります。



# 報告書は仲間の安全を思い浮かべて書いて

仲間の安全を願う気持ちは、  
ヒヤリハット報告書の報告件数や  
文字数の多さに表れます！

## 重大事故につながりかねない「ダラダラ」

運転中「ヒヤリ」や「ハッ」となった状況に、気づかなかつたり放置したりすると、いずれ軽微な事故が増え、重大な事故の発生につながります。この警鐘を鳴らすのは、「1件の重大事故には、29件の軽微な事故と、300件のネガに至らない事故がある」という、労働災害の統計から導き出された、かの有名なハインリッヒの法則です。この法則に基づいた取り組みは、事故を抑止し、ヒヤリハット自体を少なくすることに有効です。

さて、上のピラミッド型のイラストでは「ハインリッヒの法則」を輸送業に当てはめてみました。見、交通事故とは無関係に思える「番下」の「あいさつが雑になる」「制服をだらしく着る」。実は、このような状態だと車両美化や整備、車輪止めを怠ることにつながり、ひいては忘れ物や誤配など、うっかりミスも増え、ヒヤリハットの発生、最終的には事故に至る危険性を含んでいると考えられます。そこですは「あいさつ」のし方や制服の正しい着用方法を社内ルールに設定することから始めてみませんか？ 始業点呼時、ルールから外れたダラダラ状態で入室してきたドライバーの言動や行動から、点呼者が事故を起こしかねない危険な「口」に気づきやすくなるのでお勧めです。

## ヒヤリハット報告書を書かない人 = いずれ「事故報告書」を書く人

そもそもヒヤリハット体験は少ない方が良いのですが、残念ながら道路の上では毎日のように大小さまざまな危険に遭遇しているものです。ドライバーが危険な状況に陥っても、それに「気づかず」にヒヤリハット体験を自覚できないのであれば大きな問題です。

例えば、左側方を走行するバイクに「気づかずに」まま左折を開始したとしても、無事に通過できれば「ヒヤリハット報告書」を書くには至らないうちです。しかし同じ行動でも、相手が停止や減速をせず接触をすれば、「事故報告書」を書くこととなります。

## 報告書には、仲間の安全への願いが詰まっている

「危ないものを危ないと思いき、近寄らないこと」は、安全の「あ」といえる初歩的な安全行動です。そして安全な人は危ないと思つて感度が高くなり、危険な状況に早くたくさん気づく「もの」です。また仲間の安全を願う気持ちは、「ヒヤリハット」の報告件数や報告書の文字数に表れます。それは自身の経験がより詳しく記入された報告書を社内でも共有することで、みんなの安全に役立てられるからです。事故を起さず汗をかき前に、ヒヤリハット報告書を書きまわす。

高柳 勝二 (たかやなぎ かつし)

株式会社 プロデュープ代表取締役。1990年、運送会社にドライバーとして入社し、管理職を経て18年間勤務。2008年に株式会社 プロデュープ設立。中小運送会社からの依頼が多い「提案型」研修は、受講されたドライバーや管理者からの「おもしろい・眠くならない・分かりやすい」との評判が口コミで広がり、各都道府県のトラック協会や協同組合等の研修会でも講演多数。2016年度より国土交通省「自動車運送事業に係る交通事故対策検討会」委員。